

第15回世界水素エネルギー会議（2004年）横浜に決まる

HEES 会長 太田 健一郎

本年6月11日から北京で開催された第13回世界水素エネルギー会議において、2004年に開催される第15回大会の開催地が議論され、横浜で開催されることに決まりました。ここにその決まるまでの若干の経緯を記すことにします。

1998年アルゼンチンのブエノスアイレスで開催された第12回大会の時、2002年はカナダのモントリオールで開催されることが決まりましたが、その折から、2004年は日本で開催すべきという声があり、太田時男先生、斉藤泰和先生（当時HEES会長）を中心に起こり、検討が進められました。WE-NET計画の今後の予定を考えると、2004年は日本として最適であり、6月に横浜で実施することを骨子に、1999年に本会議を主催するIAHE（国際水素エネルギー学会）会長のベジログラー教授が来日した折りの打診を含めて積極的な招致活動を始めました。

当初は競争相手はインドくらいで、問題なく日本開催が認められると考えていました。今年に入り、スイスが立候補しそうといううわさがあり、3月には韓国が立候補の意志を斉藤HEES会長（当時）に伝えたことから、日本としてしっかりした準備をすべきということになり、前回のカナダの申請書を参考にHEESの谷生事務局長を中心に準備作業が進められました。

第15回大会の開催地は北京大会中の6月12日昼に開かれるIAHE理事会で決定されるとのことで、横浜らしいパンフレットを準備して日本を出発しました。北京に着いて、まず情報として入ったのがノーベル賞の母国であるスウェーデンのストックホルムの立候補です。会議開催年の変更まで噂にのぼったのですが、結論からは、2004年に向けて、このスウェーデンと韓国（釜山）と日本が争うことになりました。

6月12日昼に、会議指定のホテルである五洲大酒2階の会議室で開催されたIAHE理事会に臨みました。日本からの太田時男先生、斉藤泰和先生（古浜先生代理）を含めて、10名程度の理事が出席されていたように思います。提案者は議長のベジログラー教授の指示で、当初は外で待機、順次中に入り説明をしまし

た。韓国、スウェーデン、日本の順で説明をしました。説明に与えられた時間は各国10分、その後質問を受けると言う方式でした。スウェーデンは分厚い資料とともに、美人のアシスタントも控えており、物量で圧倒された気がしましたが、日本としては水素エネルギーに関する技術力を世界に問うことを中心に太田（健）が説明しました。

日本への質問は、時季（梅雨）の問題、HIFORUMとの関係、横浜へのアクセスでしたが、特に困る問題はありませんでした。3カ国は説明の後、退席し、理事の中で議論が進められたようです。欧州各国にはスウェーデンを押し声もあったようですが、最後は、議長判断で、日本の横浜で開催する事に決まりました。このことはその夜の歓迎レセプションの席で、ドイツのヴィンター教授から参加者に紹介がありました。

第15回世界水素エネルギー会議は2004年6月27日から7月2日の間、横浜市の国際会議場であるパシフィコ横浜で開催する予定です。NEDOをはじめ関係諸機関のご協力を得ながら、HEESのメンバーを中心に準備を進めるつもりです。会員各位の積極的なご協力をお願いいたします。

なお、本件に関するお問い合わせ、連絡先はHEES事務局長谷生先生です。



バンケットで横浜開催の宣伝をする太田会長